

# 校名：山梨大学教育学部附属小学校

所在地：〒400-0005 甲府市北新1-4-1 電話番号：055-220-8291

記載日：平成28年5月8日 記載者：中國 昭彦 記載者役職：副校長

## 貴校の校風、おおまかな特色について

### 本校の性格と任務

- (1) 本校は学校教育法第29条の規定に基づき、初等普通教育を施す。
- (2) 山梨大学教育学部の教育研究計画と密接な連携のもとに小学校教育の理論および実際に関する研究ならびにその実証を行う。(研究実証校)
- (3) 小学校の教師を志す教育学部の学生のため、観察・参加・実習を指導し、それを通して高い教職的教養を身につけた教師の養成に努める。(教育実習校)
- (4) 本校の研究成果を広く公開し、公立学校等の研究や現職教育に協力して県下の小学校教育の進展に寄与する。(現職教育学校)

## 2 教育目標

「ともに学び ともに生きる 心美しき子ども」

- ・元気な子 心身ともに健康で、正しい判断力をもって生きる子
- ・思いやる子 美に感動し、思いやりの心で接する子
- ・考える子 価値を見出し、学び方を身につけながら進んで学ぶ子

## 3 学校経営の重点

- (1) 円滑な教育活動を行うために、校務分掌の各係は適切な計画を立て、それに基づく実践、評価を行い学校改善に資する。
- (2) 山梨大学、同教育学部及び附属四校園の連携に努める。
- (3) 家庭、地域社会との連携を図りながら学校内外に開かれた学校づくりに努める。
- (4) 校舎内外の整理整頓、施設・整備の充実及び美化に努める。

## 貴校の卒業生の活躍状況について

- ① 追跡調査をしていない。
- ② 中学校の進学状況は把握している。

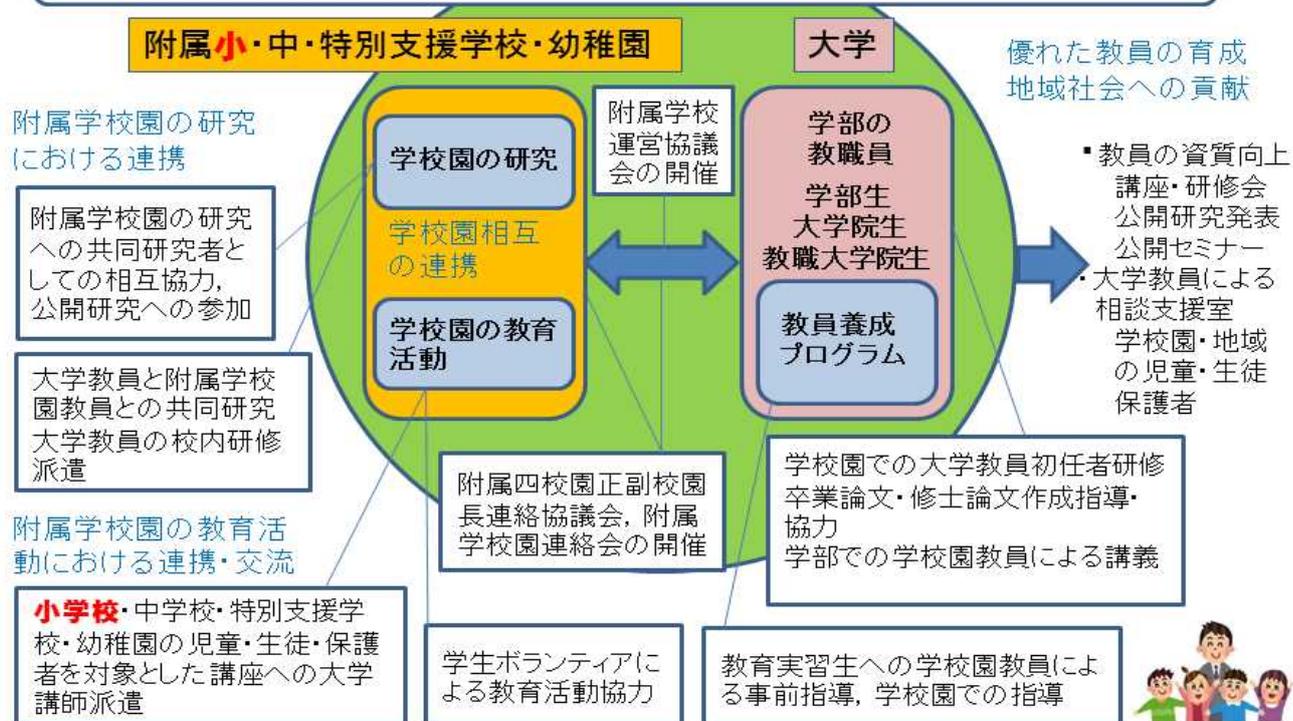
## 貴校勤務経験者の先生方が公立学校・教育委員会などへ戻られた後の活躍状況について

- ① 追跡調査をしていない。
- ② 県内各地域の公立小中学校の研究のリーダーとして、各校研究主任として活躍したり、県内各地域教科研究会の事務局担当として教育研究を推進したり、山梨県教育委員会及び甲府市教育委員会等の指導主事や山梨県教育センター研修主事として県内教育研究の推進役として活躍している。

# 魅力のある、特色のある、または、今後、公立学校へも展開できそうな先導的な取り組みなどについて

## 山梨大学教育人間科学部附属学校園と大学との連携した特色のある取組

研究や教育活動における学校園相互の連携や大学と学校園との連携協力によって、学校園の教育活動の充実を図るとともに、優れた教員の育成、地域社会への貢献に資する。



### ○附属学校園の連携

教育現場が抱える諸課題にこたえていく視点から、大学・学部と附属学校園との関係強化を通して、「地域の指導的モデル校としての機能を充実」させるとともに、「現代的課題に対する地域のモデル校としての取り組みを公開する」ことを目標に実践研究活動に取り組んでいる。特に、附属学校園の教育・研究活動に対する大学と附属学校との連携・協力関係の点で前進が見られた。両者の関係を強化するため、附属学校運営協議会ならびに附属学校園企画運営委員会等で調整を図り、教育・研究の両面で連携・協力の強化を図っている。

### ○教育課題に対する取り組み

本校では「学ぶという行為は、本来自発的・主体的な営みであり、子どもからわきおこる知的欲求を自ら充足させようとする姿勢に支えられている。」という前提に立ち、長年にわたり「子どもが真ん中」の教育研究をすすめてきた。その際に、目の前の子どもの実態を分析し、その時々時代の背景や、それにとまなう教育課題に応じて研究主題や研究副題を設定してきた。研究を重ねるごとに、研究主題は変化しても、子どもの実態を出発点としていることは変わらない。学びたいという関心・意欲を原動力とし、子どもの「わかる」過程や内面に育まれる力に寄り添った教育課程の開発や改編、指導方法の工夫、評価方法の開発等に取り組んできた。過去6年間の公開研究会では、延べ2589名の参加（各年平均432名）があった。

○附属学校園相互の連携を強化する取り組み

附属学校園相互の連携・協力を強化するため、以下の内容で取り組みを実施してきた。

①附属学校園正副校園長連絡協議会、学校園連絡会の年4回の開催

②附属学校園公開研究会への相互協力

③附属学校園の交流活動と学校園の連携

小学6年生の中学校の授業観察会（1回）

外国語活動での6年生と中学生との交流（3回）

特別支援学校小学部との交流活動（3回）

附属幼稚園児との生活科の授業交流（2回）

附属幼稚園児の運動会への参加

附属幼稚園来入児保護者に対する小学校生活の説明会（1回）

附属幼稚園児1日入学（1回）

○附属学校園と大学との研究面での連携

①附属学校園の研究に共同研究者として参加 附属小学校へ大学教員19名参加

公開研究会に共同研究者として大学教員が参加し、事前・事後研究を共同して展開した。

③ 大学教員と附属学校園教員との共同研究 附属小学校教諭2名

附属教育実践総合センター研究紀要に共同研究の成果を公表した。

○附属学校園の教育活動における大学との連携・交流

附属小学校の児童・生徒・保護者を対象に実施した講座の講師として大学教員が協力・連携

附属小学校児童・保護者への特別授業「あおぎり講座」の開催

（H25年から3年間継続実施、H27年度：8講座開設、参加者数328名）

<効果>

大学教員による専門性の高い講座は、児童のみならず、保護者にとっても魅力的な内容で、多くの喜びの感想が学校に届いた。児童の中には、自分の興味が広がり、これから更に深く学んでいきたいという、将来につながる感想があった。教育学部のみならず、工学部、生命環境学部からも講師を招き、今後は医学部も含め全学的な連携へと広げていく。

○質の高い教員を養成するための連携・協力

大学の教員養成プログラムにおける連携

①教育実習生に対する附属学校園教員による事前指導

大学における事前指導、各校園ごとの事前指導、学年や教科ごとの事前指導と徐々に指導内容について具体性を増すことにより、学生が事前の準備がしやすいよう工夫した指導を行っている。

②附属小学校での教育実習指導

実習録の検討を行い、実習生にとって学びやすく、教員志望への意欲がより高まるような工夫をしてきた。

④ 附属小学校教員による教育実習生に対する指導案作成のための講座開催

実習前に現場の教員の指導のもと、実際に指導案を書き、模擬授業を行うことを通して学生同士で学びあうことによって、実践力をより高めている。

○地域の教員の資質向上を図るための講座・研修会の実施

地域における研修会や学習会の実施や講師・指導助言者としての参加 附属小学校教諭2名  
山梨県総合教育センター講師 附属小学校教諭2名・副校長

地域において、現在、貴校はどのような存在であると考えますか

本校は、教育現場が抱える諸課題に伝えていく視点から、大学・学部と附属学校園との関係強化を通して、「地域の指導的モデル校としての機能を充実」させるとともに、「現代的課題に対する地域のモデル校としての取り組みを公開する」ことを目標に実践研究活動に取り組んでいる。

附属学校の存在意義、貴校の存在意義について

附属学校園としての利点を生かし、学校園の連携や大学との連携を行い、よりよい教育活動が展開されている。小学校生活科の授業や運動会、1日体験入学における幼稚園との交流活動、小学校児童と特別支援学校児童との交流活動、中学校との外国語活動での交流活動、大三学部（教育学部、工学部、生命環境学部）教員による特別講座への児童・保護者参加、大学学部生や大学院生による教育ボランティアによる参加協力など豊かな教育活動の実践につなげている。

本校は、教員養成の学部の附属学校としての地域への貢献の在り方を探り、ニーズに伝えていくことが必要とされている。質の高い教員を養成するための連携・協力については、大学における事前指導、各校園ごとの事前指導、学年や教科ごとの事前指導と徐々に指導内容について具体性を増すことにより、学生が事前の準備がしやすいよう工夫した指導を行ってきている。

教育実習指導では、実習録の検討を行い、実習生にとって学びやすく、教員志望への意欲がより高まるような工夫をしており、附属小学校教員による教育実習生に対する指導案作成のための講座を開催している。

附属小学校では、全教諭が公立の小学校からの割愛者であり、本校から転出した後、県教育委員会や甲府市教育委員会の指導主事や公立小学校の研究主任、地域の教科研究会の事務局担当として研究の推進役として活躍しており、附属小学校の存在意義は大きい。それ故に適材適所の人事配置が課題となっている。附属学校の使命・役割を果たす意欲のある教諭の配置を、今後も県教委に働きかけていく必要がある。